



「ひとり不幸もみのがさない住みよい町づくり運動」と題して同区全体でこの問題に取り組んでいます。その活動の一環として、同自治会の全世帯75世帯に「救急情報キット」の配布を、町内自治会で初めて決定しました。これは、プラスチック製の容器にいろんな情報を入れて保管しておき、救急や災害時、救急隊などが素早く状況を把握し、迅速に対応できるようにするためのものです。

「救急情報キット」 を全世帯に配布した

洞爺湖温泉1区自治会

治会の全世帯75世帯に「救急情報キット」の配布を、町内自治会で初めて決定しました。

これは、プラスチック製の容器にいろんな情報を入れて保管しておき、救急や災害時、救急隊などが素早く状況を把握し、迅速に対応できるようにするためのものです。

容器内には、名前や住所、生年月日などをするした用紙のほか、健康保険証、病院のカード、服用薬などの写しを入れて保管。どこに置いたのか忘れないよう、置き場所も各家庭にある冷蔵庫内に統一しています。玄関にも表示ステッカーをはり明示しています。

横山節子会長は「独居のお年寄りや障害者だけでなく、地域全体で安全、安心を確保していきたい。町内各自治会もぜひ取り組んで欲しい」とこの活動の広がりに期待しています。

第2弾として同自治会では、「緊急時や災害時サポート」を目的にしたサポーターグループの編成に取り組むこととしており、日常での「声掛け」など、お互いが楽しく助け合って生活できる地域づくりを目指して活動を続けています。

有珠山噴火の 痕跡を再確認

秋のジオパークの全国大会を控え、火山と共生する洞爺湖有珠山地域を再認識しようと、5月8日、「西山山麓火口群・金比羅山ガイドウォーク」(洞爺湖ビジターセンター・火山科学館主催)が開かれました。

雑草や下草の少ない時期でなければみるのが難しい断層など、噴火から11年経過した有珠山の痕跡を改めて観察しました。



フットパスの金比羅火口回ルートから洞爺湖を眺める参加者ら

シリーズ④

洞爺湖有珠山ジオパーク

西山山麓散策路



2000年噴火では地下に潜り込んだマグマが地表を押し上げ、最大で70m以上隆起しました。西山山麓の火口の一部では、噴火から10年が経過しようとする現在でも、水蒸気をあげている場所があり、それらの火口をつなぐように、散策路が整備されて地元の人や観光客に2000年噴火の様子を伝えています。また、2000年の火口群周辺は噴火直後の生態系を観察するのに適した場所でもあります。現在は裸地から多年生植物への回復過程にあり、火山噴火跡地特有のオオイタドリなどが多く見られます。

(1) 菓子工場遺構

2000年の噴火で開いた火口群の中にあつた菓子工場の建物はすぐ横から始まった噴火に伴う噴石によって無数の穴が開き、床下に断層が通ったため形はゆがめられました。現在もそのまま何も手を加えられずに、その場所に保存されており、西山山麓火口散策路で見学することができます。



菓子工場遺構

(2) 旧とうやこ幼稚園

3月31日、西山山麓で噴火が始まり、爆発を繰り返して地下の岩盤を壊しては噴石が弾道飛行して西側の狭い範囲に落下しました。地表に落下した噴石は土煙をあげ、岩石の破片が飛び散りました。火口から600m離れたとうやこ幼稚園はちょうど噴石が集中的に落下した方角にあつたため、噴石の直撃を受けて建物には大きな穴が開き、園庭にも多数の噴石が散らばりました。



旧とうやこ幼稚園